

社会 Social Activities

安全・安心への取り組み

KOITOは、「光」を基本テーマとして顧客ニーズを創造し、社会の進歩発展に貢献することを企業理念としています。「交通事故低減」と「持続可能な社会に貢献する技術開発」をマテリアリティ(優先課題)の一つと定め、企業メッセージ「安全を光に託して」のもと、安全・安心なクルマ社会の実現に向けた製品開発を行っています。

LEDヘッドランプやADBの更なる性能向上を目指すとともに、先進運転支援システム(ADAS)・自動運転に対応した次世代ランプや各種センサ(LiDAR・カメラ等)の研究開発も行っています。

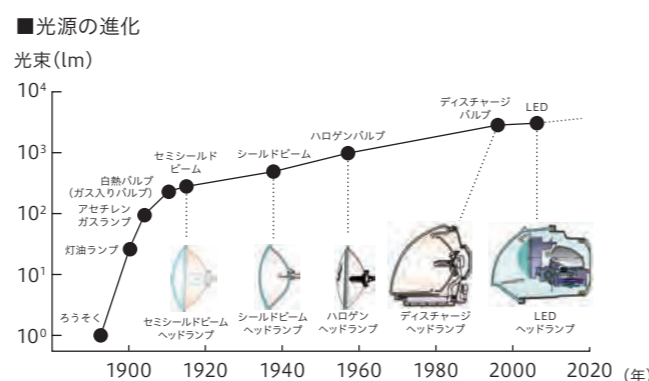
今後も、KOITOグループの技術を活用した安全かつ高品質な製品・サービスの開発・提供を通じて、クルマ社会の安全・安心に貢献していきます。

安全・安心に貢献する技術・製品開発

●LEDヘッドランプ

KOITOはクルマの安全な夜間走行のため、より明るく、遠方を照射するヘッドランプの提供を目指し、高出力・高性能な光源の開発に取り組んできました。

LEDヘッドランプはKOITOの主力製品であり、明るく、瞬時に点灯し、昼間色に近い光であるため、ドライバーの夜間の視界確保に寄与します。KOITOでは、更に遠方視認性を改善するレーザーヘッドランプの開発にも取り組んでいます。



●配光可変ヘッドランプ(ADB:Adaptive Driving Beam)

ハイビームの配光パターンを自動制御し、先行車や対向車へ眩しさを与えることなく、常にハイビームでの走行を可能にし、ドライバーの前方視界を良好に保つADBを実用化しています。

また、夜間走行の更なる安全性向上を目指し、より微細な配光制御を実現するADBの研究開発も進めています。

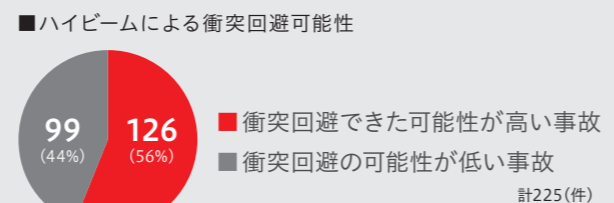
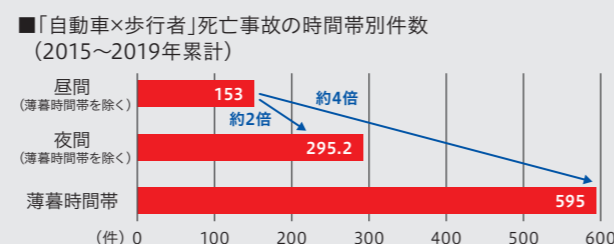


▶ 本誌P.18~19の成長戦略ページをご覧ください。

ハイビームで防げる死亡事故がある

日本の交通事故死者数は年間約3,000人。中でも17~19時台(薄暮時間帯)の死亡事故が最も多く、特に「自動車対歩行者」の事故は昼間と比べると2~4倍にもなります。このことは、ドライバーの視認性の悪化が歩行者との交通事故を引き起こす一因となっていると推察されます。更に「自動車対歩行者」の死亡事故の発生状況を分析した結果、自動車がハイビームを活用していれば回避できた可能性の高いものが、相当数を占めるとい調査結果もあります。

より遠方から歩行者の視認を可能にするハイビームは、周囲が暗い走行環境において交通事故の防止に効果的です。



※警察庁発表資料「ハイビームの上手な活用で夜間の歩行者事故防止」を基に作成
<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/anzen/highbeam.html>

品質・製品安全

KOITOグループは、「小糸グループ行動憲章」において「安全かつ高品質な製品・サービスを開発、提供し、お客様の満足と信頼を獲得する」とともに、「製品の品質向上」をマテリアリティ(優先課題)の一つと定め、品質の確保・向上に向け、お客様第一の製品づくりに努めています。

また、品質マネジメントシステム(QMS:Quality Management System)においては、開発から生産までのあらゆる部門が、品質レベルを維持・管理するマネジメントシステムを運用しています。

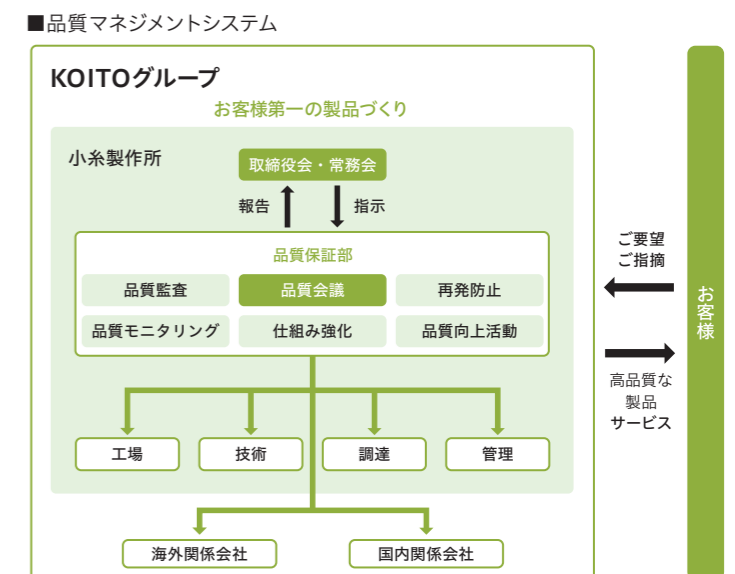
今後も、それぞれの国や地域の状況にあわせた活動を展開し、品質の維持・向上を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

品質活動の推進体制

KOITOでは、国際規格であるISO9001、IATF16949に基づいた品質マネジメントシステムを構築し、円滑な運用を行っています。

品質保証部長を委員長とする「内部品質監査」を年1回以上開催し、KOITOグループ全体の品質管理に関する事項の意思決定や、品質管理状況をモニタリングしています。

取り組みの進捗状況は、品質部門担当役員を通じて取締役会・常務会に報告され、経営層のモニタリングによる管理体制の強化を図っています。品質試験・評価の結果、不具合が見つかった場合等は、迅速に原因を究明し、再発防止を図るよう、体制を整備しています。



品質マネジメントシステム認証取得

海外関係会社を含むISO9001もしくはIATF16949の認証取得事業所の一覧は、右表の通りです。

今後も、品質マネジメントシステムの構築を通じて、各関係会社・各部門におけるPDCAサイクルを徹底し、製品安全や品質の確保に努めています。

品質認証取得	
ISO9001認証取得	IATF16949認証取得
小糸九州	ノース・アメリカン・ライティング(米国)
アオイテック	ノース・アメリカン・ライティング・メキシコ(メキシコ)
静岡電装	コイト・ヨーロッパ(英国)
日星工業	コイト・チェコ(チェコ)
藤枝オートライティング	広州小糸車灯(中国)
静岡ワイヤーハーネス	湖北小糸車灯(中国)
コイト電工	福州小糸大億車灯(中国)
	タイ・コイト・カンパニー(タイ)
	インドネシア・コイト(インドネシア)
	大億交通工業製造(台湾)
	インドネシア・コイト・ライティング(インド)

品質向上への取り組み

KOITOでは、新入社員・管理監督者などを対象とした職階別教育において、品質教育を実施しています。また、設計・開発の技術者を対象に「SQC(統計的品質管理)の教育」を実施し、品質管理に関する知識の向上に努めています。

また、QCサークル活動や改善事例発表会(FQC大会、スタッフQC大会)等を実施し、品質の向上や改善に日々取り組んでいます。

今後も、更なる品質向上を図るべく、研修・教育など、活動充実を図っていきます。




スタッフQC大会(2019年)

サプライチェーンマネジメント

すべての事業活動を通じて「人と地球にやさしいものづくり」を実践するためには、サプライチェーン全体を通じて、社会的責任を果たすことが重要であると考えています。このためKOITOでは、仕入先と協働しながら、社会からの要請や期待に応え、お客様へ高品質なサービスを提供できるよう、調達方針を策定しています。

また、仕入先には個別にコスト、品質、労働災害「ゼロ」等の期待値を説明し、協業で達成に向けた活動を展開しています。

KOITOは、ものづくりにおいて仕入先との緊密な関係を大切にしながら、サプライチェーン全体を通して持続可能な社会の実現を目指しています。

 調達方針については、
当社ホームページをご参照ください。
URL:<https://www.koito.co.jp/csr/social/supplychain.html>

取引先との連携強化・共存共栄等に向けた取り組み

KOITOは、取引先との連携強化・共存共栄を図るとともに、サプライチェーン全体で社会の持続可能な成長に貢献するため、2022年3月、「パートナーシップ構築宣言」を策定・公表しました。



今回の宣言にあたりKOITO独自の取り組みとして以下の個別項目を明示しています。

- 自動車・モビリティの変革に対応すべく、オープンイノベーション加速に向けた他社との連携を強化します。
- ITを活用した情報共有やデジタル化を進め、関係する取引先との業務効率の向上を図ります。

サプライチェーンにおけるCSRの強化

KOITOでは、年1回の「調達方針説明会」や月1回の「仕入先情報連絡会議」等を通じて仕入先にCSRの取り組みを理解いただくとともに、随時、相談を受け付けています。調達方針説明会では、販売・技術や生産・品質などに関する方針を共有するとともに、仕入先の外注先も含めた法令遵守の徹底をお願いしています。万一仕入先などにおいて法令違反の事例があった場合は、KOITOに情報を展開いただき、フォローを実施するなどコンプライアンスを推進する体制を整えています。

また、仕入先には積極的な環境認証取得などを推奨しており、認証取得状況を毎年確認しています。2021年度は約430社を対象に調査を実施しました。環境負荷物質については、防火防災点検時に有機溶剤の管理体制・使用量につき確認して

います。万一管理体制等に問題があった場合は、改善計画書の提出をお願いし、フォローを実施しています。

KOITOグループとお取引させていただく仕入先には、持続可能なサプライチェーンの実現に向け、環境・社会面において実施をお願いしたい事項を定めています。

また、一部取引先を対象に、品質・人権・環境・コンプライアンス等、CSR活動全般の実施状況を確認しています。

【環境面でのお願い事項】

- ・ISO14001やエコアクション21などの外部認証取得
- ・RoHS指令に基づく特定物質の使用禁止
- ・REACH規制に基づく物質に関する透明性確保
- ・製品に含有されるナノ物質のトレーサビリティの確保
- ・自動車業界における主要課題に対する環境方針の策定

【社会面でのお願い事項】

- ・児童労働、強制労働、差別の撤廃
- ・安全労働衛生の推進
- ・適正な給与・労働時間の確保
- ・その他非人道的行為の防止
- ・鉱物の責任ある調達

【KOITOのCSRの取り組み】

- ①自動車産業適正取引ガイドラインに基づく対応
- ②環境負荷物質の含有継続調査
- ③紛争鉱物年次継続調査
- ④人権／労働に関する法令等の遵守徹底
- ⑤コンプライアンス全般に関する徹底
(反社会的勢力排除の契約書締結など)

紛争鉱物対応

コンゴ民主共和国とその周辺国において採掘される一部の鉱物が、人権侵害等を行う武装勢力の資金源となっていることが国際的に問題視されており、米国では、金融規制改革法(ドッド=フランク法)において、当該地域を原産とするズ、タンタル、タングステン、金の4種の鉱物を「紛争鉱物」と定義し、使用状況を毎年調査し、情報公開等を行うことが義務付けられました。

KOITOにおいても、人権侵害や環境破壊等への加担を回避し、サプライチェーン全体を通じて、社会的責任を果たすため、紛争鉱物年次調査を継続的に行い、仕入先とともに、紛争鉱物の使用回避に向けた取り組みを実施しています。また、新規仕入先と取引を行う際には、紛争鉱物調査結果を十分に精査し、取引実施につき検討しています。

人材マネジメント

KOITOは、「人材育成」、「労働安全衛生」、「働き方改革」、「人権尊重」をマテリアリティ(優先課題)の一つと定め、「コミュニケーション&コラボレーション」をキーワードに、一人ひとりの持つ知識・経験・気づき・問題意識の共有を多様な手段により促進し、全員参加で課題に取り組む生き生きとした職場づくりを目指しています。

▶ 本誌P.24～25の人材戦略ページをご覧ください。

人材データ

(小糸製作所 単独)

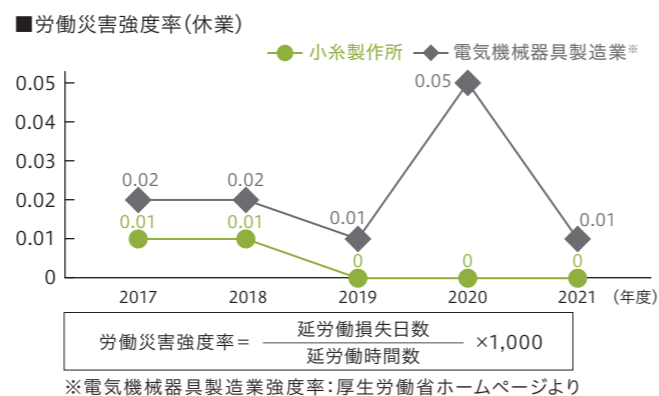
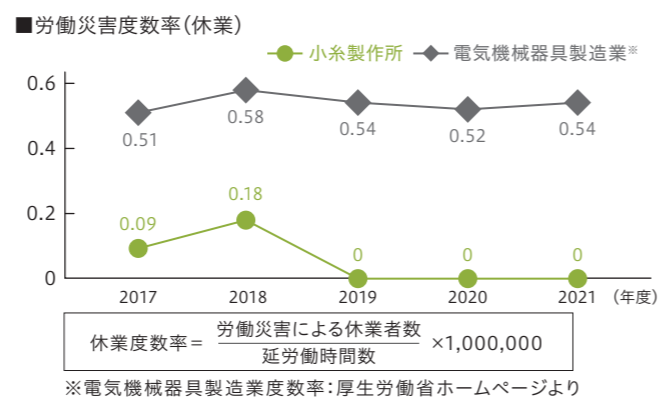
項目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
従業員数(人)	男性	3,471	3,551	3,570	3,534	
	女性	907	908	912	883	
	合計	4,378	4,459	4,482	4,417	
定期採用者数(人)	事務系総合職	合計	17	19	25	0
		女性比率	47.0%	52.6%	32.0%	0.0%
	技術系総合職	合計	71	81	70	27
		女性比率	7.0%	12.3%	8.6%	11.1%
	一般職	合計	43	47	47	24
		女性比率	25.6%	31.9%	29.8%	20.8%
管理職数(人)	合計	131	147	142	51	
	女性比率	18.3%	23.8%	19.7%	15.7%	
	男性	580	582	607	612	
障がい者雇用者数(人)	女性	6	6	8	9	
	女性比率	1.0%	1.0%	1.3%	1.4%	
	比率	80	85	84	82	
派遣社員比率		2.27%	2.37%	2.31%	2.25%	
平均勤続年数(年)	男性	19.7	19.2	19.3	19.6	
	女性	21.8	21.3	21.5	21.7	
	全体	20.0	19.6	19.7	20.0	
再雇用比率	管理職	91.7%	88.9%	100.0%	93.3%	
	組合員	75.4%	77.5%	85.7%	81.4%	
	全体	78.3%	79.4%	88.5%	84.3%	
離職率(自己都合退職)		1.1%	1.1%	1.1%	1.6%	
総労働時間(時間)		2,044.0	1,998.5	2,324.1	2,064.0	
月平均残業時間(時間)		23.7	20.6	9.9	9.3	
年次有給休暇取得日数(日)		16.0	16.2	14.7	16.5	
	有給休暇取得率	77.3%	78.2%	70.8%	82.5%	
産前・産後休暇取得者数(人)		37	34	33	28	
育児休業取得者数(人)	男性	4	4	14	25	
	女性	59	58	65	65	
	合計	63	62	79	90	
育児時短勤務取得者数(人)	男性	1	1	0	2	
	女性	58	61	54	67	
	合計	59	62	54	69	
介護休業取得者数(人)	男性	0	0	0	3	
	女性	3	0	1	2	
	合計	3	0	1	5	
従業員研修時間(時間)		63,181	75,241	42,960	44,953	
	一人当たりの研修時間	14.4	16.9	9.6	10.2	
メンタルヘルス研修受講者数(人)		1,028	682	239	243	
労働組合加入率		95.4%	98.3%	98.8%	98.1%	

労働安全衛生

KOITOでは、「安全はすべてに優先する」を安全衛生の基本的な考え方として、安全・安心で働きやすい職場づくりを全員参加で目指しています。また、各活動において守るべき行動基準として「安全五訓」を定め、全社に展開しています。

代表取締役を委員長とする安全環境委員会において、毎月、従業員の安全衛生に関する予防や再発防止対策の指針や重要事項を協議しています。安全環境委員会で協議された内容は、各工場の安全衛生委員会や安全環境協議会、各職場での職場安全会議により従業員一人ひとりにまで情報展開される体制を整備しています。

働くすべての人を対象とした「安全ルールを守る人づくり」のための繰り返し教育や防災訓練等を実施、従業員一人ひとりの意識醸成に努めるとともに、職場に潜むリスクを見つける感性を磨きリスクアセスメントと危険予知(KY)を着実にを行っています。また、労働災害・交通事故0件を目標に、取締役・所属長自らの現場点検、不安全状態の摘出と対策のやり切りなどの未然防止活動に取り組んでいます。



労使の取り組み

従業員一人ひとりが能力を最大限発揮し、高い生産性とモチベーションを維持・向上できるような職場環境を形成するためには、労使相互の強固な信頼関係が必要不可欠です。

KOITOの従業員によって構成される「小糸製作所労働組合」(組合員3,878名)は、上部組織である「JAM静岡」に加盟しています。KOITOは、労働組合との労使協議会を原則毎月開催し、業績の概要や労働諸条件等の課題について協議しています。

また、労働組合は全組合員を対象とした「組合員意識調査アンケート」を定期的にも実施、職場や業務、キャリア等に対する組合員の意識調査を行い、結果を組合活動やKOITOへの提言などに活用しています。

人権の尊重

KOITOは、「従業員が希望をもって描く夢の実現に向かって前進する」ことを経営理念の一つとし、また「小糸グループ行動憲章」において、「すべての人々の人権を尊重する」旨を10原則の一つとして定めています。

従業員のみならず、取引先や地域社会とのコミュニケーションを図り、すべてのステークホルダーの人権を尊重することで、国際社会からも信頼される企業であり続けることを目指しています。

KOITOでは、コンプライアンス教育の一環として、従業員に対し人権尊重に関する教育を実施しています。また、ハラスメント研修といった特定の課題に関する研修を適時行い、従業員一人ひとりの人権尊重に対する意識醸成に向けた取り組みを推進しています。

社会貢献活動

KOITOグループは、経営理念の一つである「社会の一員として社会の共存共栄に資する」ことを体現するため、「小糸グループ行動憲章」において「『良き企業市民』としての責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を行い、豊かな社会の実現に寄与する」ことを定めており、これに基づいたさまざまな活動を推進しています。

●ウクライナ情勢を受けた支援

KOITOはウクライナ情勢により、極めて厳しい環境に置かれている人々の安全と生活に対する支援として、2022年4月、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)に総額10万ユーロを寄付しました。寄付金はUNHCRを通じ、ウクライナ及びその周辺地域における人道支援活動に充てられます。



●ESG債券の購入

資金の運用においては、運用効率や格付けなどに加え、ESG、社会への貢献度を選定基準の一つとしています。持続可能な社会の実現に貢献すべく、2021年度は2機関によるグリーンボンドとソーシャルボンドを購入しました。

●国内における環境保全活動

KOITOでは、環境保全や生物多様性への取り組みの一環として、世界文化遺産である「富士山」の構成資産である「三保松原」の下草刈りや周辺海岸清掃活動等を実施しています。



■三保松原下草刈り(2019年)



■三保海岸清掃活動(2019年)

●海外における環境美化活動

インドア・ジャパン・ライティング・プライベート・リミテッド(IJL)では、地域住民との交流会や清掃活動等を実施、環境美化・保護に努めています。



■地元学校との交流(2019年)



■植林活動(2019年)

●各工場の地域活動への参加

KOITOの各工場では、地域住民との懇談会や、周辺自治会への工場開放(夏祭り)等を定期的にも実施しています。

また、地域住民を対象とした工場見学や、小・中学生を対象とした子供参観会等を実施し、企業活動への理解促進を図っています。



■夏祭り(2019年)



■子供参観会(2019年)

ステークホルダーエンゲージメント

KOITOは、「小糸グループ行動憲章」において「公正な情報開示と建設的な対話」を行う旨を定め、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するため、株主・投資家の皆様に正確な情報を公正にご提供しつつ、建設的な対話を行っています。

2021年度は、第121回定時株主総会をはじめ、証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催しました。決算説明会では、KOITOグループの業績(実績・計画)などに関する説明を行い、参加した皆様から多くのご質問、ご意見をいただきました。また、機関投資家の皆様との個別面談を延べ約220回実施、原則としてすべての面談を取締役により対応しています。面談内容やいただいたご意見・ご要望は、経営トップを含む各取締役・執行役員に報告するとともに、取締役会において報告を実施しています。皆さまとの対話から得られた知見を経営の取り組み改善につなげています。